［第三種郵便物認可］　昭和十一年四月二十三日　磐城新聞　［木曜日］　第四千六百五號　〔一〕

夕刊

四月二十二日發行
定價一ヶ月金六拾錢
日曜祭日翌日休刊

隨筆

桃の花

下

鈴木章弘

まア、かうしたことはどのやうに思はれるうでもいいが、一口に桃色といふと淺紅の色をさすほどさやうに、桃の花の色は一般化（一定化）されてゐるが、眞紅の緋桃もあれば淫祠の掃溜が叫ばれてゐる純白の白桃もあるといふことだけをいつておきたいのである。花は五花瓣の一重が普通であるが、八重もあり出よう。八重の白桃は觀賞によい。果樹としてゞなく、庭木としてよいのである。私は、八重の緋桃は、あまり好まない。あまり艶々しいしかし大きな庭園に、一本ぐらゐあるのはいいものである

×

桃——三月節句——雛祭——少女——の聯想は、あまりにも常識化されてゐるほど、桃と雛祭とは深い因緣があるらしい。で、三月の節句を桃の節句ともいつてゐる。五月が、男の節句であり、三月が、女の節句である。男の節句を五月にして、女の節句を、男のそれよりも二ケ月も早く、三月にしたのは、どういふ理由であつたのかは知らぬが三月の節句に、お雛さまを飾つて、これに桃の花を配し、白酒を献じて、蛤を上げるところなどは、どう考へてみても、その昔の生殖器崇拜の藝術化された行事

生殖器崇拜敎の話などにはあまり脫線すると、さなきだに大本敎を初めとし邪宗一つ話を本尾して、高尙にも、すぐその筋から睨まれないともかぎらないからである。

×

春の苑紅にほふ花下照る道に、出で立つ少女

これは、萬葉集に收められてある大伴宿禰家持の歌である。

×

春の庭に、桃の花が美しい。それが夕陽を受けて、道までも赤く照り榮えて見える。そこに、やまと歌

これは夢太の句である。これまた、長閑な叙景詩である。桃と牛とは、いかにも自然にして平和な配合である。もゝに配するに、悍馬であつては、繪にも詩にもならない。あの悠然たる牛でなくてはいけない。牛はもゝ林を好み、もゝ花また牛を好むといふのであらう牛の異稱が、もゝ林處士とはこれまたいよ〳〵深き宿緣の間柄、その牛が『もー』（もゝ）となく

食うて寢て牛にならばやもゝの花

これは、蕪村の句である。私も、うど源の里に、食うて寢て、もゝの花見のできる生活をしてみたい

賀松原君卒業

珠玉　小野務平

知見遙高拔愈精
多年勤學業玆成
由來麟鳳生麟鳳
不怪名門出俊英

鳴く蛙

蛙鳴く鳴く鳴く
蛙黃昏れ時の畦道を
一人歩めば鳴く蛙
蛙鳴く鳴く
鳴く蛙
樂しき昔
亡き兄を
思ひ出せよと
鳴く蛙

私は思ふ

川名俊子

遠く森の彼方に明滅する
一つの星よ
噫！　私は思ふ
弱者の、敗散者の寂しさを
私と云ふ者の存在の寂しさを
噫！　しみ〴〵と
私は思ふ

島田忠夫個人誌『田園』刊行に就て

童謠詩派同人

島田忠夫氏は故島木赤彦氏の門下の歌人として、また吉江喬松、西條八十氏門下の童謠詩人として長年にの御長逝に遭ひいたく哀哭亘つて力作を發表し續け、その盛名は既に世に定まつてゐる所でありますが、それは慨して識者或は詩文に親しい人士間のことであり、まして、むしろ大衆的ではつて賛同せられ支援を惜まるものでないと憾があります（中略）

さきに雜誌『うぶすな』を刊行し、次いで雜誌『コケモモ』を發刊して幾何もなくして中絕するの已むなきに至つたのでありますが、にあつては吾々童謠詩派の同人相協力して支持し、品自由發表の機關たる使命を遂げ旁ら先輩又は交友門の息子なんだ』

寛之助は唖然とした。あゝ何といふ意外な言葉だ『島原屋東左衛門は實の親だ。そして俺の名は東六といふのだ』

男の言葉は荒くなつた。酒のせいではない。まだ盃

島田忠夫氏は猶ほ雜誌經營には不適なる、所謂藝術家肌にして利害の詳細を辨へ長久に續刊を見るやう、故に『田園』刊行伏而御助力を乞翼ふ次第であります（發行所東京市荒川區日暮里九の一〇七六、吉雲寺内）

追而　田園は六月號より御刊、定價一部四〇錢で御座います

平あけび會

四月句會

潮來集

摘草のおそきに母の門に佇つ　志賀甲子
汐干狩海女にことゝく都人
からひたる目刺は小の柚の宿　目刺燒くやさつと焰のあかりけり　西潟枯洋
手拭か目印となり汐干狩
沖舟の動くともなき干潟かな
土筆蒲公英つみつゝもとる家路哉　國玉喜輝
さし汐に追はれてもとる汐干舟
訪へは目刺燒きゐる女房かな

講談　黃金魔刀

(131)　高桑義生作　樋口悅也畫

奇緣の人々（二）

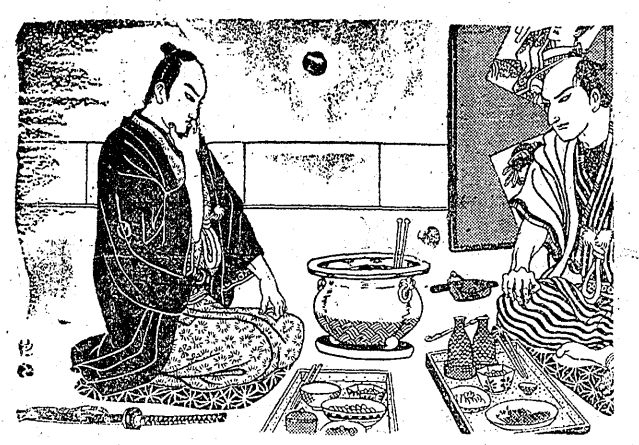
『まだ〳〵、それよりびつくりする事がある。おいらは實は島原屋の伜、東左衛門の息子なんだ』

寛之助は唖然とした。あゝ何といふ意外な言葉だ『島原屋東左衛門は實の親だ。そして俺の名は東六といふのだ』

男の言葉は荒くなつた。酒のせいではない。まだ盃をぐつと乾して、『まだ〳〵、それよりびつくりする事がある。おいらは實は島原屋の伜、東左衛門の息子なんだ』

寛之助は唖然とした。あゝ何といふ意外な言葉だ『島原屋東左衛門は實の親だ。そして俺の名は東六といふのだ』

男の言葉は荒くなつた。酒のせいではない。まだ盃



殺してしまつてはそれまでだ。島原屋が生きてゐる限り、おれが生きてゐる限り、苦しめて苦しめぬいて、さうして復讐してやるのだ。生き變り、死に變り、祟つてやるのだ』

『何故そんな事をするのか？假にも子がその親を憎むなんて……』

『だから他人にはわからないといふのだ』

『さうぢやない』

と寛之助、いくらか興奮しながらいつた

『わたしは親を知らないが多分生れるとすぐおれを棄たのか——それにしても、別だ。人間なんてあさましいものなんだ獸に近いのだ向ふが憎んで來れば此方でも憎む。恩を仇で返す人間さへあるのだ。人我につらければ、我また人につらしだ』

『さもしい根性だ』

『うむけちな量見かも知れぬ。けががあやしい熱を帶びて一

『うーむ……』

とわづかに、寛之助呻くやうに漏らした

『だが、聞いてくれ。俺はその親が島原屋東左衛門がつてゐるのだらう。育てもこの世の中のどんな奴よりせずに棄てた親、親が親のねね、が、今、お互ひの意も憎いのだ。他人が他人を務をしなければ、子は子の見の相違を話してゐる場合憎む、そんなのは普通だ。務をする必要がない』

實の子が實の親を憎むのだ『そんな事はない。たとへ肉親が肉親を憎むのが、ど棄てられようと、親は親、おれはさういふ人間なんだ』

んなに強いものだか、こりやちやないか、先で惡いさうぢやないか、『お前は、するとあのた染やちよつと人にはわから事をしたから、此方も惡いだが、あんたの知つてゐるない。おれは東左衛門を呪事をしなければならないのだ。向お染ありやあ本當の島原屋つてゐる。譯はだん〳〵わといふ理窟はないのだ。の子ぢやねねのだ』かるが、大方おれの氣持がふは向ふ、此方は此方だ。『フウム……』

わかつたらう……』おれは誰も怨まない。誰も『おれの妹、島原屋の娘の

『……』憎かあない』お染は別にゐる』

『島原屋はおれの仇なのだ『さうかなあ』『えッ！』

おれは仇を取らなければやならない。だが、ひと思ひにたが、東六といふ男、冷い『可哀さうに、お染は日の

廣告

最新下劑
前田醫院
アロフエノール
平田町
阿部藥舖

呼吸疾患救濟の王……
陸海軍御用
帝國大學醫學部御用
官公立醫學專學校門御用
吸入用酸素體溫計（メートルグラス）
御用命次第速に御届け致します。
平町古鍛冶町縣社ノ下
處方箋調劑所　阿康藥局
電話四四番
振替口座東京三〇〇番

石炭一〇〇%サーヴ井ス
時節柄ダンゼン値下げ！
一等塊　正味五十斤入一俵　金二拾八錢
特塊　同　同　金二拾五錢
品質が優良目方が正確
デナケレバ（値段バカリ安クトモ結局高イモノニナリマス）
此の點は當店を絕對に御信用願ひます。
▲市内は一俵より迅速に配達致シマス。
電話三七番
石炭コークス亙炭
阿部石炭商店

診療時間　夜間
胃腸病科　性病科
內科　專門
花柳病科　性病科　皮膚科
松村醫院
（平町南町電話一〇七番）
（見習看護婦募集）

お花見に
踊り付レコード
花見おどり　踊りの講習致します
櫻行進曲
うかれ櫻
平町五丁目
金光堂時計店
電話一九五番

診療科目
一、齒科一般　保存科、補綴科、繼續架工科、齒列矯正科、小兒齒科、齒槽膿漏科
一、口腔外科
一、レントゲン科
中野齒科醫院
院長　日本齒科醫學士　中野惠次
日本齒科醫學士　西川誠
（見習看護婦募集）
平町田町（松月堂向と）電話五〇九番

耳鼻咽喉科專門
醫學士　鈴木正男
平町田町（電話五八番）藤田女學校前
「入院のお需とに應ず」（看護婦及ビ見習看護婦募集）
齒科口腔外科
日本齒科醫學士　鈴木喜政
內郷村高坂磐炭病院前
鈴木醫院

開院
外科一般　特ニ內臟外科　皮徹科　肛門病科
北川外科
レントゲン科
物療法科
平町新川町（諸橋醫院跡）
醫學博士　北川芳夫
醫學士　奥義弘
イツデモ入院デキマス。電話四六四番

外科、內臟外科　院長　安齋徹
エツキス光線科
新設　產婦人科　醫學士　黑澤廣
平町田町
入院隨意　安齊醫院
電話四七五番

吸入用酸素
◎秤ノ取リ方ハ絲・糸ヲ垂レテ修ヘ復致シマス
度量衡
モノサシ　マス　ハカリ
計量器
体温器　寒暖計
開業
開内藥局
電話四〇番

勉強ノ店（良クテ安イ）
建築美品
床柱、天井板、ベニア板
新入荷品、秋田杉四分板、
山川印優品建具材
平町紺屋町
內外建築木材一式　銘木便利瓦、木羽
余織田材木商店
電話平四六〇番
◎建築木材類ノ御用命ハ誠實勉強ノ當店ニ◎

耳鼻咽喉科專門
平町南町一六番地
（入院隨意（病室完備））
大和田醫院
電一七〇番

福島縣平町二丁目
藥品百貨
西村屋藥舖
藥劑士　鈴木堅助
電話三番
振替東京六・二九九一・二〇一

咲いた〳〵よ！

咲いた〳〵彌生の空にパラ！と咲いた、けふしも降る催花の雨に華かな『松ケ岡春の行進曲』は急テンポに施回し出したよ！、人力車を急立てる製者衆の顔、書入れで悦に入る料理屋女將の顔、さては血眼な賢店子の顔等々、みんな微笑ましい春の表情だ——この『春の舞台』の副産物をのぞいて見ると、げに春なれや！の感が深い、次にその二、三を拾つて見る

溢れ出る春の副産物（プロフキル）

各國國民性を象徴するが如き草花類十ヶ國廿六種の種子を分配されたので園藝部係の松本訓導が主となつて別個に『特別花卉園』を新設、園員の手で栽培育成することになり、將來はあらゆる機會を利用して同園の擴大を圖り他の同種花園の模範たるべく計劃してゐる

スキスー八重咲ケシ　フランスー金盞草　アメリカーグアーベナ　ベルギーー花煙草　ノールエーー木犀草　ドイツーナグラクム　シヤムー葉雞頭　ユーゴスラビヤー勿忘草

脫線客よどされ 書入れの花柳街

遊廓の大太鼓は春ちや〳〵

『春はホルモンの内分泌旺ゆうべも打鳴らす大太鼓が盛から……』なんてむづか『春ちや〳〵』とはしやいでしい事はぬきにして兎に角ねた

公園で上機嫌になつた脫線客を四ツ手網ならぬ客網？をしいて待つてゐる南町のアマゾン流域やネオン渦巻くカフエー街、或は醉國鎌田遊廓にも『春の惠み？』はあまねく行き亘つてゐるデス——

何せ遠來客等の來町で賑はつた去る十九日一日丈けで鎌田遊廓の遊客人員は〆て七十二人、この金額百三十八圓（平署届出）で一軒當りの最高遊客四十人、一人の娼妓が一日何と十人のお客をとつたと云ふんだから豪勢？なもんぢやありませんか

一日三十六通

公衆電話賑ふ

公園の人出の程度は臨時公園電話の通話度數がよく物語つてゐる、去る十五日迄は一日一通話乃至二通話だつたのが十六日以降は

十六日—四通話　十七日—六　十八日—二一　十九日—三六　二十日—一八　二十一日—三二

と俄然激増し、局のモシ〳〵嬢も『同電話は今月末迄の豫定だがこの分では延期しなければ……』と云つてゐる

臺口、日記帳や 物騒な赤鞘の短刀

笑飛な遺失物の種々相

ふだんの月でさへ百件位にそれよりか抜身の剃刀や赤上る平驛の遺失物は今月に鞘の短刀迄……見つけた驛入つてもう百卅七件『例年員も思はずギヨツ！と春の事ながら春ともなれば人戰慄？を感じた事だらう間の心もそう當にはならないね』と云つて係の驛員が見せた『遺失物統計簿』の中から春らしいものを拾つて見る、何と云つても帽子洋傘、萬年筆、それから襟卷、外套等、寒い冬と縁を切つて不用になつたものが親玉だが平月のものと一寸趣を異にしてゐる處では墓口、印鑑、金子等、或は脫線しやすい春の一日はなるべく記憶に留めまい……でもあるまいが日記帳等をほつたらかした人もあるが、これはまた心寒い春の副産物——夜櫻見物やそゞろ歩きでとかく留守がちなけふこの頃のスキを覗つてコソ泥が横行するからお互戸締に御用心の事、それに學校專門の賊が隨所に出沒するので其筋では目下警戒の目を怠らない

平町衛生日割　平町

留守宅御用心 空巢横行

市制を布くには

先進地銚子足利を觀る

○　△　生

十

記述上大した途草でもないから順序として古い時代に於ける足利の姿を振り返らう。處で之亦此種の紋切型を行つて——本市上古時代は史蹟の徴すべきもの無いが……とあるが曾て傳唱するに關東北の權力集中地點であつた如く、人皇第二十九代欽明天皇（即位紀元一、一九九西五三九）の御代織物を造つて貢納した

○

之れ現時唯一の物産たる織物の起源である、次で淳和天皇の天長年間（紀元一、四八四—一、四九四）參議小野篁足利學校を創立せられ、文學の淵源地として名聲天下に嘖々たるものがあつた。その後天喜二年（紀一、七一四）藤姓足利氏の城地であつたが末裔遂に源姓足利氏に歸し、更に上杉氏の管領時代を經て長尾氏城主となり、以後德川氏の代官政治から戸田氏の領地に移り、明治維新廢藩置縣の際栃木縣の所管となつて後足利町の名稱を冠した

○

足利の名稱は『倭名類聚鈔』に『下野國管九、足利、梁田、安蘇、都賀、寒川、河内、芳賀、鹽屋那須』とあつて足利は阿志加々梁田は夜奈多と訓せられ九郡中の二郡である。中世莊園の制起るに及んで梁田の名稱は廢せられたが、足利の名は梁田郡を併せ庄名として傳稱された

○

其後莊園の制破れて往古の郡名が復活するに至り渡良瀬川を以て兩郡の境とし再び足利梁田と分稱された——春にそむいたドン底

ドン底に 白殺を覺悟し さゝやよふ涙の老婆

描かれた春の哀話

昨夜六時半頃平町古鍛冶町地内稻荷トンネル附近を物思つてゐたので生活苦に陷り思ひに沈みながらり昨年の暮可愛い二人の娘ぶらついてゐる身を平町某カフエーの女給にすばらしい老婆が住み込ませ娘達の仕送りでをきくと矢庭に線路上に走最近自分も中風病から起居も不自由になつたので遂に思ひ餘り自殺を覺悟したものと判明、直に娘二人を呼び出し將來を戒めて引渡し

フユ（五六）

春……シーズン來る 運動具は大塚で

○野球グローブ　少年用　一、二〇〇　内外
○野球ミット　大人用　一、七〇〇　内外
○庭球ラケット　少年用　一、五〇〇　内外
○最優秀なる品　大人用　三、五〇〇　内外
新型百本限り　一、五〇〇

手下げバック　各種運動家に最適品
○リュックサック　各種……豐富に
○各種運動服裝類　平・田町
なんでも豐富　大塚

電話七十七番

五十嵐産婦人科醫院

平町新川町一二

醫學博士 五十嵐雄一

電話三七〇番

（入院應需）

脫線客よどされ 書入れの花柳街

遊廓の大太鼓は春ちや〳〵

『春はホルモンの内分泌旺ゆうべも打鳴らす大太鼓が盛から……』なんてむづか『春ちや〳〵』とはしやいでしい事はぬきにして兎に角ねた

公園で上機嫌になつた脫線客を四ツ手網ならぬ客網？をしいて待つてゐる南町のアマゾン流域やネオン渦巻くカフエー街、或は醉國鎌田遊廓にも『春の惠み？』はあまねく行き亘つてゐるデス——

何せ遠來客等の來町で賑はつた去る十九日一日丈けで鎌田遊廓の遊客人員は〆て七十二人、この金額百三十八圓（平署届出）で一軒當りの最高遊客四十人、一人の娼妓が一日何と十人のお客をとつたと云ふんだから豪勢？なもんぢやありませんか

一日三十六通

公衆電話賑ふ

公園の人出の程度は臨時公園電話の通話度數がよく物語つてゐる、去る十五日迄は一日一通話乃至二通話だつたのが十六日以降は

十六日—四通話　十七日—六　十八日—二一　十九日—三六　二十日—一八　二十一日—三二

と俄然激増し、局のモシ〳〵嬢も『同電話は今月末迄の豫定だがこの分では延期しなければ……』と云つてゐる

臺口、日記帳や 物騒な赤鞘の短刀

笑飛な遺失物の種々相

ふだんの月でさへ百件位にそれよりか抜身の剃刀や赤上る平驛の遺失物は今月に鞘の短刀迄……見つけた驛入つてもう百卅七件『例年員も思はずギヨツ！と春の事ながら春ともなれば人戰慄？を感じた事だらう間の心もそう當にはならないね』と云つて係の驛員が見せた『遺失物統計簿』の中から春らしいものを拾つて見る、何と云つても帽子洋傘、萬年筆、それから襟卷、外套等、寒い冬と縁を切つて不用になつたものが親玉だが平月のものと一寸趣を異にしてゐる處では墓口、印鑑、金子等、或は脫線しやすい春の一日はなるべく記憶に留めまい……でもあるまいが日記帳等をほつたらかした人もあるが、これはまた心寒い春の副産物——夜櫻見物やそゞろ歩きでとかく留守がちなけふこの頃のスキを覗つてコソ泥が横行するからお互戸締に御用心の事、それに學校專門の賊が隨所に出沒するので其筋では目下警戒の目を怠らない

平町衛生日割　平町

留守宅御用心 空巢横行

市制を布くには

先進地銚子足利を觀る

○　△　生

十

記述上大した途草でもないから順序として古い時代に於ける足利の姿を振り返らう。處で之亦此種の紋切型を行つて——本市上古時代は史蹟の徴すべきもの無いが……とあるが曾て傳唱するに關東北の權力集中地點であつた如く、人皇第二十九代欽明天皇（即位紀元一、一九九西五三九）の御代織物を造つて貢納した

○

之れ現時唯一の物産たる織物の起源である、次で淳和天皇の天長年間（紀元一、四八四—一、四九四）參議小野篁足利學校を創立せられ、文學の淵源地として名聲天下に嘖々たるものがあつた。その後天喜二年（紀一、七一四）藤姓足利氏の城地であつたが末裔遂に源姓足利氏に歸し、更に上杉氏の管領時代を經て長尾氏城主となり、以後德川氏の代官政治から戸田氏の領地に移り、明治維新廢藩置縣の際栃木縣の所管となつて後足利町の名稱を冠した

○

足利の名稱は『倭名類聚鈔』に『下野國管九、足利、梁田、安蘇、都賀、寒川、河内、芳賀、鹽屋那須』とあつて足利は阿志加々梁田は夜奈多と訓せられ九郡中の二郡である。中世莊園の制起るに及んで梁田の名稱は廢せられたが、足利の名は梁田郡を併せ庄名として傳稱された

○

其後莊園の制破れて往古の郡名が復活するに至り渡良瀬川を以て兩郡の境とし再び足利梁田と分稱された——春にそむいたドン底

ドン底に 白殺を覺悟し さゝやよふ涙の老婆

描かれた春の哀話

昨夜六時半頃平町古鍛冶町地内稻荷トンネル附近を物思つてゐたので生活苦に陷り思ひに沈みながらり昨年の暮可愛い二人の娘ぶらついてゐる身を平町某カフエーの女給にすばらしい老婆が住み込ませ娘達の仕送りでをきくと矢庭に線路上に走最近自分も中風病から起居も不自由になつたので遂に思ひ餘り自殺を覺悟したものと判明、直に娘二人を呼び出し將來を戒めて引渡し

フユ（五六）

古銀冶町地内稻荷夫の長次郎が長い間喘息をトンネル附近を物思つてゐたので生活苦に陷り思ひに沈みながらり昨年の暮可愛い二人の娘ぶらついてゐる身を平町某カフエーの女給にすばらしい老婆が住み込ませ娘達の仕送りでをきくと矢庭に線路上に走最近自分も中風病から起居も不自由になつたので遂に思ひ餘り自殺を覺悟したものと判明、直に娘二人を呼び出し將來を戒めて引渡し

世以降莊園が各地に起るに及び、足利の名稱は庄名として用ひらるゝに至つた、而して庄内幾多の鄕があり、足利庄と記された文書普通一般に見る處である

○

明治十八年戸長役場の作製せる『地誌材料下調書』に據れば本町古くより足利五個鄕と稱せり、云々。とある

（此項續く）

在軍分會 記念講演

在鄕軍人會平町分會では來月二十七日の海軍記念日に際し午後七時から湯屋組合總會　平署第三小學校で日本海々戰の下腹部を突き刺され大腸綴本貨宿二薬屋に泊り込み、石坂

上棟式の歸りに 土工刺し殺さる

磐崎生れの伊藤甚太郎

昨年東海道線に實施して好評を博した夏期賣出列車が愈よ今夏は仙鐵管内に實施することとなつたが、右冷房裝置には二方法があり、その一は勝房裝置のパイプを利用してアンモニヤ瓦斯を通大將である

湯屋組合總會

磐崎村生れ當時茨城縣稻敷郡浮島村戸崎大内一夫方同居土工伊藤甚太郎（二九）は二（三）同村原土宮本文治（二）の兩名と口論の末、入り亂れて格鬪を演じ宮本が隱し持つた双波四寸七分の短刀（三寸）で兩名は何れも内臟破裂の重傷を負ひ附近の醫師を招き手當を受け生命に別條なく、加害の宮本、杉山十日同村津田奈川千拓水利兩名は直に江戸崎署員に逮捕され取調べを受けてゐる

窃盜二人男

木賃宿を根城に　ズリ拾場を荒す

木賃宿を根城にして炭礦のズリ拾場を荒した二名の泥的が同時に平署に檢擧された——笠輪村榊小屋生れの野辰藏（四五）と埼玉縣北足立郡與野村生れの石坂幸次郎（三五）で兩名は何れも内鄕村

詐欺漢に一年『精神病』を賣物にした圖々しい男

白銀町一五菊田方前島寅松（三三）が所持したもので無屆のため銃砲火藥取締法違反件は今二十二日平區で野木に聞はれた

天氣豫報

小名濱測候所觀測

今晩は北東の風曇後雨　明日は南の風曇後晴夕立模様

修學旅行の小學三

期日　行程　平三小學校の修學旅行は既報の如く從來の日光參拜の外東京市内見學を計劃に盛つて準備中だつたが大体左の如くて決定、時刻は列車が特別ダイヤ編成のため決定にいたらぬ

△期日　六月三、四兩日
△人員　約六百名
△費用　一人四圓二十五錢（七十五錢增）
△行程　（第一日）平（午前四時半頃）—水戸—友部—小山—日光（同九時頃）—上野（午後七時頃）（第二日）市内見學（遊覽バスにより上野動物園、東京驛、二重橋、靖國神社參觀、帝國議事堂、明治神宮）—上野（午後四時頃）—平（同七時頃）

第一校に 特別花卉園

列國の花種到着

平第一校上級兒童よりなる少年赤十字團では校内に學校園を設け團員の手で種々植物を培ひ相當の成績を收めてゐるが今回本團から世界各國の同團より贈られた各國國民性を象徴するが如き草花類十ヶ國廿六種の種子を分配されたので園藝部係の松本訓導が主となつて別個に『特別花卉園』を新設、團員の手で栽培育成することになり、將來はあらゆる機會を利用して同園の擴大を圖り他の同種花園の模範たるべく計劃してゐる

スキスー八重咲ケシ　フランスー金盞草　アメリカーグアーベナ　ベルギーー花煙草　ノールエーー木犀草　ドイツーナグラクム　シヤムー葉雞頭　ユーゴスラビヤー勿忘草

縣で養鷄奬勵

團体及個人希望者に 優良種を拂下ぐ

縣種鷄場では、種鷄、種雛十錢、種卵十個八十錢、種種卵の拂下げを實施することになつたが、拂下先は市町村、同農會、産業組合又は養雞組合及び種鷄場長が適當とみとめる團体若しくは個人に對して行ひ、種類呼は既報の如く來月二十三四の兩日二等巡洋艦木曾が小名濱に廻航して執行するが參會區域は郡山、浪江、富岡の三署管内である

簡閲點呼

艦上

横鎮の十一年度艦上簡閲點呼は既報の如く來月二十三日兩日行ふが十日は警察署を境にして東部、十一日は西部である

夢心地で冥土行き

豐間の青年漁夫溺死

去月中旬頃から夜湯本、内鄕の炭礦ズリ拾場から古ロープ等を盜み出しこれらを何れも同村の古物商に賣り飛ばしてすきな酒にひたつてゐたもので神野は前後二十九件、石坂は十數件に及んでゐる

豐間村薄磯字中街金三郎弟は去月中旬頃から夜湯本、内鄕の炭礦ズリ拾場から古ロープ等を盜み出しこれらを何れも同村の古物商に賣り飛ばしてすきな酒にひたつてゐたもので神野は前後二十九件、石坂は十數件に及んでゐる

詐欺漢に一年『精神病』を賣物にした圖々しい男

白銀町一五菊田方前島寅松（三三）が所持したもので無屆のため銃砲火藥取締法違反件は今二十二日平區で野木に聞はれた

短刀の所持者判る

別項—平驛の待合室に遺失された赤鞘の短刀は平署で調査の結果、平町

白米を盜む

小川の踏鐵業檢擧

上小川村上小川踏鐵業富谷源助（四八）は去る二月一日夜係り清田檢事關與公判開廷まゝ行方を晦ましたが同人は第二補充兵で近く點呼があるから探して欲しいと養父啓次郎から平署に捜索方を願ひ出た

狡い男一年

川前村

上桶貫字小牛田栃木縣那須郡那須村生れ蠶曳藤田金治（三七）に係る詐欺竊盜事件は信徒（三三）は去る一月六日歸鄕すると同鑛を飛び出した

廣告祭審査

一等田町福助亭

縣社大祭奉祝廣告祭審査會

十等紙屋町新妻三郎　以下

二十三日

日出　四、五五　月出前　五、四三
日没　六、一六　月没後　八、三二
滿潮前三、三五　後五、四〇　干潮前一、一〇　後一、〇〇

舊暦

新四　三　乙亥　月　大安　二
十三　危　日　井宿

諸判定應需
東京市本鄕區湯島四丁目五番地
高島易斷總本部　神誠館

▲一白　自ら守る事寡く父人の窓見も尊重すべし▲二黒　人の爲めに勞を採れば其徳後日に戻り來る▲三碧　利益ありと見て手を出せし事も失敗勝の日▲四綠　實いを以てするも共支けに人に認られぬ日▲五黄　胸の限りを盡して奮闘すれば難事も到る日▲六白　元敗しづみ自由行動の採れぬ日外事は殊に凶▲七赤　運氣開發の日名弘め開店建築何れも宜し▲八白　自然發展な見るの日何事も急がず漸進せよ▲九紫　無理の通らぬ日殊に新しき事には凶害多し

春……シーズン來る 運動具は大塚で

○野球グローブ　少年用　一、二〇〇　内外
○野球ミット　大人用　一、七〇〇　内外
○庭球ラケット　少年用　一、五〇〇　内外
○最優秀なる品　大人用　三、五〇〇　内外
新型百本限り　一、五〇〇

手下げバック　各種運動家に最適品
○リュックサック　各種……豐富に
○各種運動服裝類　平・田町
なんでも豐富　大塚

電話七十七番

五十嵐産婦人科醫院

平町新川町一二

醫學博士 五十嵐雄一

電話三七〇番

（入院應需）